

Japanese
Faith Is The Substance
47-0412

信仰は実体のあるものである
オークランド カリフォルニア州 アメリカ合衆国
1947年04月12日



www.messagehub.info

ウィリアム・マリオン・ブラハム
"...第七の御使が吹き鳴らすラッパの音がする時には、神がその
僕、預言者たちにお告げになったとおり、神の奥義は成就され
る。" 黙示録 10:7

はじめに

際立ったウィリアムブラナムのミニストリーは、マラキ4章4,5,6及びルカ書17:30と黙示録10:7と多くの聖書の預言に対する聖霊からの答えなのです。この世界規模のミニストリーはこの終わりの時に聖霊による神の御業の継続なのです。それは聖句の中にあり、イエスキリストの再臨のためにある人々を整えるために立ち上げるために必要とされていると書かれています。

あなたが祈り深くこのメッセージを読むとき、この印刷された御言葉があなたの心に刻まれるようにと祈ります。

メッセージの正しい転写、翻訳を提供できるように最善を尽くしておりますが、英語の録音がウィリアムブラナムによって語られた説教をもっともよく表しているものです。

オーディオや転写された1100の説教がウィリアムブラナムによって語られたものが無料でダウンロード可能で又多くの言語で印刷可能になっています。(日本語での翻訳あり)

変更が行わないかぎり、メッセージを無料でコピー、配布することは許可されています。

信仰は実体のあるものである

1 録音のために、いくつか新しい機材を入れました。

毎晩どこにいるのか、自分たちでもはっきり分からないほどです。ここ四晩のうち、もう三度も場所を移しました。そして明日の夜も、また移動だと思いません。

それが本当に大変なのです。あちらこちらへと移動し続けて、ほとんど…まるで毎晩が新しい場所のようで、とても難しい状況です。

でも、いつの日か、またオークランドに戻って来られるなら、そのときはここにあるような講堂を一週間か二週間借りられたらと願っています。そうすれば、本当のリバイバル、本当の集会が持てるでしょう。そう思いませんか？ 私はきっとできると信じています。

ただ、今はスケジュールがあまりにも不規則なのです。

一晩か二晩ここにいて、また百マイル先へ移動する。ちょうど人々が落ち着いてきて、神の超自然的な御業が動き始めるのを見られるようになる頃に、集会を終えて、また二百、三百、四百マイル先へ行き、最初からやり直すのです。

そして、人々がリバイバルの段階に入り、癒され、多くのことがなされるその直前に……また移動しなければならないのです。

2 ですから、カナダから戻って来た後、メキシコや他のどこかへ行く前に、これからは一つの場所で一か月ほど腰を据えてリバイバルを開こうと思っています。

そうすれば、本当に人々に仕えることができます。祈りを受けた人々がしばらくしてから戻って来て、「良くなりました」「癒されました」と報告し始め、証しが次々に起こっていく——そのようになるまで、十分に時間を取れるのです。

私の故郷、インディアナ州ジェファーソンビルでは、まさにそのようです。ここでは何も問題がありません。町に入るやいなや、あらゆる所から何百人もの人々が集まって来ます。

なぜなら、そこでは一つの場所に落ち着いているからです。このように絶えず移動しているのではないのです。

3 そして皆さん、この約六か月間、ほとんど昼も夜も休まずに動き続けてきました。

今日は、神と二人きりのすばらしい一日を過ごしました。そこには主と私以外、誰もいませんでした。私は一人になると、心がより落ち着くのです。

これから休みが来るまでに、あと五つの集会があります。あと五回の集会です。そして五月には、丸一か月を完全な休みにあてて、ロッキー山脈へ行く予定です。ああ、あの山の中で一人になって、ただ静かに過ごすのです。

私は神と二人きりになる時間が好きなのです。そういうときにこそ、主がどれほど愛おしいお方であるかを、深く感じる事ができるのです。

それから戻って来て、カナダでの働きを始める予定です。

4 さて、あまり時間がありませんね。講堂は何時まででしたか？十一時ですか？そう、十一時に閉まると聞いています。

ですから今夜は、少しの時間だけ、信仰の御言葉についてお話しし、どのように神に近づくべきかをお教えしたいと思います。

人々が「自分はよく知っている」と言う、深く大きな主題がたくさんあります。しかし、いざ最後の場面になると、実はほとんど分かっていないことが多いのです。本当のことです。今夜は、そのいくつかを確かめていきましょう。

それから、ちなみに——明後日の夜、別の講堂で、私の人生の証しを少しお話しする予定です。もし皆さんが聞きたいのであればですが。

聞いてみたいですか？手を挙げてみてください。

ああ、それはうれしいですね。

その講堂がどこかは、もう案内されていますか？

5 【録音終了】……それは理にかなった考えだと思います。なぜなら、私はあなたがたに癒されてほしいのです。それが、私がここにいる理由なのです。

皆さん、私にとってここにいることは大きな犠牲なのです。私には家もあり、家族もあります。そして私はまだ新しく、この働きにおいては、いわば赤子のような者です。癒しの賜物が与えられてから、まだほんの数か月しか経っていません。

私は自分の家も持っていません。小さな「L字型」のコテージの二部屋で暮らしています。妻は水道が家の中ないので、ほとんど半ブロックほども水を運び、また外へ運び出しています。

いくつもの町で、「五千ドル相当の家を建てて、差上げますよ」と言われたこともあります。

6 皆さん、私にとってそれはお金の問題ではありません。できることなら、そんなことを考えずに済めばよいのにと考えています。

だからこそ、多くの方々が贈り物を申し出てくださいしても、私は受け取りません。私が求めているのは、あなたの財産ではなく、あなたの信頼なのです。

私は、あなたの癒しのためにここにいるのです。

7 そして、さきほど話していた小さな家のことですが——妻と二人の子どもがいます。今夜は、本当なら彼らと一緒にいたいのです。

ちょうど今頃、もう十一時ごろでしょう。あの忠実な小さな娘は、ひざまずいて私のために祈っているはずです。礼拝が始まる時間だと分かっているのです。年老いた愛する母も、祈ってくれています。

そして、小さな息子——彼はまだ二歳のときに母を亡くしましたが——その子も私のために祈っています。

こうして講壇に立つとき、彼らの祈りは聞かれるのだと感ずるのです。そして、主が近くにおられることを知ります。

今夜、どれほど彼らに会いたいかわからないでしょう。数か月前、飛行機に乗るために彼らと別れたとき、子どもたちは私の上着をつかんで泣いていました。

教会の医師は、私にこう言いました。「今のままの生活を続ければ、あと一年も生きられないでしょう。ある晩、講壇の上で心臓発作で倒れるかもしれません」と。

それを息子は恐れているのです。だから泣きながら、「パパ、行かないで」と言うのです。

8 しかし、痛み、苦しんでいる人々の声が、私を呼ぶのです。

皆さん、あなたがたが私を信じてくださらなければ、私はあなたがたを助けることができません。それが、私にできる唯一の道なのです。

今夜は本当に家にいたいのです。どれほどそう思っているか、あなたがたには分からないでしょう。ここにおられる多くの方は、家を離れるということがどういうことか、ご存じでしょう。

私の家は、言ってみれば小さな小屋のようなものです。しかし、大きな家があつてこそ「家庭」になるわけではありません。家庭をつくるのは、内にある人格と愛なのです。私はそのような家庭が与えられていることを感謝しています。

どうか、神があなたがたを祝福してくださいますように。そして、私のために祈ってください。明後日の夜に、もっとお話ししましょう。

9 さて今夜は、皆さん。どうか小さなお子さんたちをできるだけ静かにさせてください。そして皆さんご自身も同じように、ほんのしばらくの間、私に心を集中していただきたいのです。

今夜、私がここにいる理由、そしてどのように神に近づけば癒しを受けられるのか——それを、私の知る限り、できるだけ分かりやすくお話ししたいと思います。

私は多くの苦しみを経験してきました。病気がどういうものか、よく知っています。だからこそ、あなたがたを助けたいのです。そして、あなたが信じてくださるなら、私は助けることができます。

今この機会に、ひと言お礼を申し上げたいと思います。心には多くの思いがあり、疲れも覚えています。今夜この講堂をお貸しくださった牧師先生に感謝したいのです。お名前を一瞬忘れてしまいました。リバレンド・ジャック・ウォーカー先生です。

もし会場におられるなら——ウォーカー兄弟、どうか神があなたとご家族を祝福してくださいますように。

【録音終了】

10 ……父よ、今夜もまたこの尊い機会を与えてくださり、あなたの愛する民の前に立つて語るができますことを感謝いたします。

私たちが生きているこの時代、この時を思うとき——あなたの愛する御子が、御自分の教会、すなわち呼び出された民、御血によって洗われ、再び生ま

兄弟に害を加えようとしています。しかし私たちは、彼を健やかにするためにここに立っています、父よ。

今夜、私は御使いの訪れについて人々に語りました。どうか今、そのことを彼らの目の前で確証してください。この信仰の列は、ここから始まらなければなりません……【レコードに傷】

ここに振動があります。どちらにあるかは分かります……【テープに空白】……これは信仰でなければなりません。ただ私自身の信仰によって信じるのです。

皆さん、どこにいても頭を下げてください。

この会場にいる方で、私がイエス・キリストによってこれを行うことができると信じる方は、手を挙げてください。

よろしい。

それだけ多くの人が信じるなら、あなたがたは神の栄光を見るでしょう。

皆さん、頭を下げてください。

104 【テープに空白】

あなたがたが何も言わなくても、神にはすべて知られています。神には秘密はありません。そして神はご自身の秘密を、しもべに明らかにされます。

あなたがたは、これまでになされたことを見てきました。中には習慣のことや、さまざまなこともありました。先ほど通られた方の中にも、一つの習慣を持つ方がいました。私はそれを見ましたが、あえて公にしようとは思いませんでした。

性病や習慣のことなどを、ここで言う必要はありません。あなたが望まない限り、そうする必要はないのです。もしあなたが求めるなら、言うこともできます。しかし、その瞬間に振動を感じました……彼の耳には栓が入っています。

さあ、皆さん、頭を下げてください。静かに、敬虔に、心を落ち着けてください。

そうすれば、あなたがたは神の栄光を見るでしょう。

105 天の父よ、私たちはこの町に駆け込むように入り、また駆け出すように去らなければなりません。人々が信じ始め、御業が現れ始めるその頃に、また離れなければならないのです。どうか、再びこの地へ遣わして下さることがあるならば、あなたの御心となりますように。

今、私の前に立っているこの男性を見てください。サタンは彼の耳をふさいでいます。いつか車の前に出て命を落とさせようとでもするかのように、この

れ、聖なる神にお会いする備えのできた人々を迎えに来られる、その直前の時代にあることを思います。その道は、神の聖なるキリストの尊い御血によって架けられました。

今夜、私たちがあなたの神聖な御臨在を待ち望む中で、どうか共に祝福してください。そして、あの夜、部屋の中であなたのしもべに語りかけるために遣わされた御使いが、今夜もこの講壇に立ち、あなたのへりくだったしもべのそばにあって、語られるすべての言葉を確証してくださいますように。大いなるしるしと不思議が伴いますように。

父よ、今夜この講堂を提供して下さったウォーカー兄弟を祝福してください。彼とご家族を祝福し、あなたの奉仕において成功させてください。実り多い枝とし、あの大いなる日に、あなたの御足もとにささげる多くの冠を持つことができますように。

また、この町でこの集会を後援して下さったモース兄弟、そして他のすべての牧師方、共に働く者たちを祝福してください。神よ、彼らの教会が火の炎のようになり、この終わりの悪しき時代——正しい方が来られる直前の影の中にあるこの時代にあつて——神の栄光を証する存在となりますように。

父よ、今夜、力強く民に語ってください。信仰が与えられますように。聖霊が今夜この講堂の上を翼のように覆い、その徳が注がれ、多く、多くの偉大な奇跡的癒しがなされますように。そして、この西海岸一帯にわたり、御名の誉れが広められますように。

私たちは、御子の御名によって、そして御栄光のために、これを願います。

アーメン。

11 さて、皆さん、私が言うように、私たちは何度も変化しています。ここにいる皆さんの多くは、神の癒しの賜物がどのようにして得られるのかさえ聞いたことがないと思います。しかし、今夜私があなたにしてほしい唯一のことは、私を信じることです。If you will believe, you shall see God's glory; I'm sure. もしあなたが信じるなら、あなたは神の栄光を見るでしょう。ここ数晩の成功は、障害、苦しみ、聴覚障害者、口がきけない人、足が不自由な人など、私が期待していたほどではありませんでした。..しかし、西海岸に到達したので、非常に遅いようです。

私たちがロングビーチにいたとき、チャールズ フラー兄弟が私に話しかけていました、そして彼は私にこう言いました、“ブランナム兄弟、” 言いまし

た、“理由は、”言いました、“この西海岸には神の癒しの名の下にすべてがあります。”言った、“彼らには青い炎の崇拜者、神の父崇拜、そしてすべて、すべてが神の癒しの名の下に存在します。”言った、“それはとてもつまずきです。”まあ、それは… そうかもしれません、友人たち；私は知りません；しかし、それは神の癒しの力を打ち消すものではありません。

12 【録音終了】……そして、神こそが癒し主です。

今、主の御名によって奇跡を行いながら、同時に主を軽んじることなど、だれにもできません。主ご自身がそう言われました。

ですから、もしだれかが人々の癒しに用いられているなら、私はそのことを感謝します。

しかし今夜この主題に入るにあたり、心から信じていることがあります。もし神が助けくださるなら、あなたがたはこの時代、この時が何であるかという“幻”を見るでしょう。

そしてそれを見たとき、あなたは理解し、そして信じるようになるのです。

13 どうか神が助けくださいますように。これから聖書をお読みいたします。

ヘブル人への手紙 第11章より、最初の数節を読みます。

よくお聞きください。私の言葉はただの人間の言葉です。必ず衰えます。しかし、神の御言葉は決して衰えることはありません。常に真実です。

信仰とは、望んでいる事がらを保証するものであり、目に見えないものを確信させるものです。

この信仰によって、昔の人々は良い証しを得ました。

信仰によって、私たちは、この世界が神の言葉によって造られたことを悟り、したがって、見えるものは、目に見えるものからできたのではないことを知ります。

信仰によって、アベルはカインよりもすぐれたささげ物を神にささげました。それによって彼は義と認められ、神は彼の供え物について証しをされました。そして彼は死んだ後も、その信仰によってなお語っているのです。

主がこの御言葉に祝福をお加えくださいますように。

こちらを見て。

あそこが見える？

その影が見える？

よろしい、皆さん、顔を上げてください。

……彼女の目は膜のようなもので覆われていました。しかし、死んだものは縮むものです。そうでしょう？

その縮みが起こり、この子は部屋の明かりを見ることができ、私の手が顔の前にあるのが分かるようになっています。

こちらを見てごらん。

……【録音に傷があり不明瞭】

103 さあ、皆で言いましょ。

「主をほめたたえよ！」

……ああ、なんということでしょう。

この子が見えるようになったという証しは、新聞に載せます。皆さんもご覧になれます。

お名前は何かおっしゃいますか、姉妹？

ロナ・メイ・プロミス。

新聞をご覧ください……。

……あなたのがんは……。

よろしい。

今、どれだけの方が信じますか？

神があなたの心を祝福してくださいますように。

さて、ここに聾啞の方がいます。手に振動があります……。

皆さん、頭を下げてください。

ったら..?…そんな感じで、もし..?…だったらどうでしょう 分かりますか?時々不思議に思うだけです。あなたの家に行きたいのですが、私は..?…そこで飛行機に乗ってチャーターして欲しいと死にかけている人がいます..?… ミズーリ州で、向こうから電話をかけてきたある女性が、電話にぶら下がって一のそばにひざまずいて泣きながら、祈ってほしいと懇願しました..?…電話を切らないように、そんなふうに電話をかけてください..?… 小さな赤ちゃんが死にかけているミズーリ州に飛行機で戻るために飛行機をチャーターしたかったのですが..?… [レコードに傷]…?…

まあ、情けないことですが、何ができるでしょうか一人は何ができるでしょうか?考えるのは気が遠くなるでしょう..?… [記録に残る傷]…?…どこからでもそういうことが聞こえてくるんです。

私は妻と話していましたが、彼女はただ、大勢の人々とあらゆるもの、ああ、私のものだと言いました。10日後に人々から1500通の手紙が届きます..?… [レコードに傷]

102 さて、この小さな女の子は盲目です。彼女の手には振動もありません。足も不自由です。しかしこれは悪霊的な振動ではなく、ただの病気です。

私はただ信じるしかありません……神がこの子を癒してくださいと。あなたも信じますか?

覚えていてください。私は癒し主ではありません。癒されるのは神です。

小さなお嬢さん、イエスさまを愛しているね?

今からイエスさまにお願いしましょう。もう一度見えるように、そして歩けるようにしていただくように。

愛するイエスよ、この小さな子にあなたの神聖な祝福を注いでください。今は見えないこの目が再び見えるように。この不自由な体が健やかになりますように。

父よ、あなたの愛する御子イエス・キリストの御名によって、これをかなえてください。

……あの光が見える?

ほら、あちらを見てごらん。

14 PAの音が少し大きいようですね……。

【テープの空白】

はい、これで少し良くなったと思います。反響が少し和らいだようです。

さて、今夜のテキストは、第11章3節——ではなく3節の後半部分から取ります。

「神が彼のささげ物について証しされた」

そして、主題は第11章1節からです。失礼しました、1節です。

「信仰とは、望んでいる事がらを保証するものであり、目に見えないものを確信させるものである。」

今夜はこの御言葉をもとにお話ししたいと思います。

15 私たちが生きているこの時代は、平安も安息も定まらない、不安に満ちた時代です。人々はあちらこちらへ走り回り、それぞれ何かを求めています。

今は、ほとんど誰でも支持者を集められるような時代です。何を教えようと、何を考えようと、必ずそれを聞こうとする人がいるのです。まさに預言者たちが語った時代です。

人は空腹になると、どこからでも食べ物を得ようとします。子どもや人々が飢えているなら、かつては立派な食卓で食べていた者でさえ、ごみ箱からでも食べるでしょう。空腹であれば、とにかくどこかで食べるのです。

だからこそ、真に福音に仕える奉仕者たちは立ち上がり、行動し、人々に正しいもの——時にかなった糧を与えるべきだと、私は思います。

16 さて、この主題についてですが……

すでにお証したように、私は説教者ではありません。ただ、神の癒しの賜物を与えられているにすぎません。そして私はへりくだって申し上げますが、それは神から来たものです。

それが来ることに、私は何一つ関わっていません。何年も何年も前に、神によってあらかじめ定められていたのです。

私自身がそれを生み出したのでも、この地上の何かはそれをもたらしたの

でもありません。

【録音終了】

17 ……それは聖書全体の基調音です。

神に近づく者は、神がおられること、そして熱心に求める者に報いてくださる方であることを信じなければなりません。信仰がなければ、神に喜ばれることはできません。

この世界は信仰によって造られました。存在するすべてのものは、信仰によって形づくられたのです。神は、空中に漂う一滴の露のようなものをご覧になり——それを何と呼ぶにせよ——そして語られました。「光あれ。」すると光がありました。

それから地を現し、乾かし、整えられました。すべては神の信仰の行為によってなされたのです。世界全体が信仰によって造られました。

あなたが今夜ここにいるのも、信仰によってです。

あなたがたの多くは、雇い主に「明日また仕事に戻ります」と言ったでしょう。しかし、どうしてそうなるか分かりますか。

「礼拝のあとで家に帰るよ」と奥さまに言ったでしょう。しかし、どうしてそう言えるのですか。

十一時に迎えに来るようタクシーを呼んだかもしれません。しかし、どうしてその時刻までここにいるか分かりますか。

今夜十一時になる前に、永遠の中にいるかもしれないのです。

ご覧なさい。すべては信仰によるのです。すべては信仰なのです。

18 さて、多くの人が「信仰」という主題について語りますが、実はほとんど理解していません。

友よ、よく聞いてください。私はあなたがたを愛しています。そして、これを本当に見てほしいのです。信仰について語りながら、その原理を一つも知らない人があまりにも多いのです。

私たちは今ここで共にいます。しかし、この地上で再び全員が顔を合わせることはないかもしれません。もし、しばらく一緒にいられる場所があって、徐々

て…?…すべての振動が私の手の中で止まりました…?…行け、神のご加護がありますように…?…?…

99 もしそうなら振動しているでしょう…?… [Blank spot on tape] 行って、信じて、兄弟よ…?…今、すべてのことを…?…見えるよ…?…今だけ。見えますよ…?…聖書ははっきりとこう言っています…?…信じるなら、信じるならすべてのことが可能だからです…?…十九百年が経過しました。神は高いところに昇り、人々に賜物を与え、今、神は今もご自身の賜物を証言しています。したがって、それに従って委託されました…?…私はこの悪魔を叱責します。イエス・キリストの名において彼から出てきてください…?…

観客に休ませてあげるかも。頭を上げろ。もしご覧になりたい方がいらっしやいましたら…私が振動とは何かを説明するのを聞いた人は何人いますか…?…あなたの手を見てみましょう。ここにいる人の中で、贈り物がどのように来るのか、私の手に振動がかかるのか、あなたの手を見てみましょう。皆さん、それが何なのかお分かりでしょう…?… [言葉が分かりにくい]…?…

100 この男だけ…?…それらがわかりますか…?…私は…?…この振動だと思っていました。ほら?でもそれは…?…さて、皆さん頭を下げて祈ってください…?…覚えておいてください、これは次から次へと起こる可能性があるもので、頭を下げておいてください…?…

天の父よ、神よ、私たちの愛する妹に慈悲深くあれ。妹には今夜癒される権利があります、父よ。彼女はナザレの救い主イエスによって癒されるという神から与えられた特権を主張するために来ました。それゆえ、父よ、あなたの僕に信仰を与えてください。今、あの…?…あの信仰の中に登ってもいいですか…?…そして今、私はイエス・キリストの名において、サタンよ、彼女を離れるようあなたを叱責します…?…

どうか頭を上げないでください、友人たち。今、それは女性の邪魔をしています。これは非常に一女性の問題ではなく癌に違いありません。なぜなら、それは非常に引き起こされるからです。さあ、頭を下げてください…?…あなたはすべてを信じています…?…私がイエス・キリストを通してこれを行うことができるかと心から信じていますか?ただ信じるだけでいいと思っているのか…?…どこかに警告があるぞ、友よ。頭を下げておいてください…?…

親愛なる天の父よ、私たちのことを憐れんでください… [記録終了]

101 ブラナム兄弟、もしテープに何かが起こったら…?…テープに何かが起こ

今、心から信じますか？

……それが真理です。あなたは良くなりたいのですね？ ブラナム兄弟の祈りを神が聞かれると信じますか？

よろしい。

天の父よ、この愛らしい小さな少女を覚えてください。青い瞳を上に向け、ほほえみながら、自分が求めたものを受けると信じています。

どうか彼女をあわれんでください、父よ。

出て行け、その悪霊よ。イエス・キリストの御名によって命じる。

……

天の父よ、あわれんでください。今夜この愛らしい少女は苦しんでいます。しかし、あなたはここにおられ、癒すために働いておられます。

信じますか？

【録音終了】

98 天の父よ、苦しんでいる私たちの妹に慈悲深くあれ..?… あなたはすべてを知っています..?… ああ..?… 全能の神が持っていることに気づくこと..?… 主よ、そして彼は自分の証言をしています..?… 汝の悪魔よ..?… 彼女をイエス・キリストの名において残すため..?…。アーメン。

親愛なる神様..?… 私は彼らが何を信じているのか..?… 父よ、今夜、苦しんでいるサタンが命を絶とうとしている私の親愛なる兄弟のために祈ります。彼を祝福してください、親愛なる神よ..?… 悪魔よ、イエス・キリストの名において彼から出てきてください..?… バルコニーで頭を下げてください。それは彼を残し、そして再び彼に戻りました。そして、誰かが頭を上げていることはわかっていました。そんなことしないで..?…

さて、ちょっと待ってください..?… 頭を下げ心から信じなさい。

天の父よ、あなたは民を癒すと約束されました..?… この時、説教壇の近くに立っている偉大な使者、癒しの神の天使を感じます。それゆえ、あなたが持つすべての信仰をもって..?… 私の兄弟が..?… 彼を早すぎる墓に送りに来たこの悪魔はどうして。彼から出てきて..?… イエス キリストの御名におい

にこのことを積み上げていくことができたなら、今よりももっとはっきりと理解できるでしょう。

今夜、私が最善を尽くして伝えようとしていることを、多くの方は誤解するかもしれません。自分を高めているのだと思う方もいるでしょう。

しかし、そうではありません、愛する友よ。

これはあなたの益のためなのです。神があなたのために何をしてくださったのか、それをただ見てほしいのです。

19 さて、多くの人々が祈りの列を通して来て、こう言います。

「おお、私は癒される信仰があります。」

しかし、皆さん、彼らが通り過ぎるとき、私は分かるのです。彼らには歯痛ひとつ治すだけの信仰さえないということが。本当です。

また、癌を抱えて列に来て、

「私は癒される信仰があります」と言う人もいます。

しかし、その人たちには信仰がありません。

今夜の私の聖書の箇所はこう言っています。

「信仰は、望んでいる事柄の実体であり、見えない事実の証拠である。」

ほら、それは“実体”なのです。

それは直接的なものです。あなたが本当に持っている何かです。

想像しているものではありません。

自分が持っていると思っ込んでいるものでもありません。

それは、あなたが実際に持っている、直接的で確かな積極的な行為(確信)なのです。

私の言っていることが分かりますか。

20 さて、少し前のことですが……信仰とは何かが分かるように、ある人の小さな話をしてみましょう。

信仰それ自体が賜物なのです。

あなたがたは、その一部分を持っているかもしれません。

しかし、「信仰の賜物」というものがあるのです。

たとえば、あなたがたの中には、病人に油を注いで祈り、その結果を見る人がいるでしょう。

それは「癒しの賜物」ではありません。

それは信仰の一部分なのです。

しかしそれは、直接的な癒しの賜物ではありません。

なぜなら、直接的な癒しの賜物は一つしかないからです。

直接的な信仰の賜物も一つしかありません。

奇跡の直接的な賜物も一つしかありません。

聖書の中では、使徒たちがそれを持っていました。

そして多くの人々が力強い働きをしました。

ピリポや他の人たちもそうでした。

しかし、それは「一つの癒しの賜物」だったのです。

21 たとえば、私たちが町を去ったあと、多くの人々がこう言います……。

私はいくつかの場所で気づいたのですが、私が去ったあとで、十五人か二十人ほどがこう言うのです。

「主が私に癒しの賜物を与えてくださった」と。

まあ、神がその人たちを祝福して下さいますように。

中にはこう言う人もいます。

「ブラナム兄弟、私に手を置いてください。そうすれば癒しの賜物を受けられるようになりますから。」

私にそれができたらよいのですが。

しして下さるあなたの証しに感謝します。その夜、部屋で私に話しかけた天使が、この時あなたの僕のそばにいて、多くのしるしと不思議が続いて御言葉を確証して下さいますように。私たちはサタンが…?…であることに気づきました。そして今夜、多くの人々が癒され、この時に彼らの信仰が引き上げられ、証しを信じることができますように。そして、あらゆる種類の病気が治りますように。すべての霊をあなたの僕に従わせてください。神の栄光のために、私たちはイエス・キリストの名においてそれを求めます。アーメン。

96 さて……神のみこころは、彼女を癒すことです……苦しめているその力の前に……姉妹よ。イエス・キリストの御名によって命じます……。

全能の神よ、苦しんでいるこの姉妹を祝福してください。今この時、彼女が悟りますように。あなたがご自身の賜物を証しされるということ。

出て行け、その悪霊よ。イエス・キリストの御名によって命じる。

どうして疑うのですか……? 神があなたに語られたと信じますか……? 姉妹よ、心から信じますか?

愛する神よ、彼女が癒されないことはありません。彼女は心から信じると言っています。そしてあなたは私に言われました。もし人々に私を信じさせ、この目的のために遣わされたと言じさせ、誠実に祈るなら、どんな病もその祈りの前に立つことはできないと。

神よ、私は十一以上の州であなたの賜物を証ししてきました。

今、父よ、どうかこの姉妹を、信仰を持つ者たちの中に数えてください。

出て行け……

【録音終了】

97 天の父よ、海外であなたがこれら愛する聖徒たちのうちに働かれたことを思い起こしています……彼らがへりくだって神を信じたとき、あなたがどのように働かれたかを。

どうか、今ここにいるこの愛する兄弟を祝福してください。彼は必要の中にあります。どうかあわれんでください、神よ。

出て行け、その悪霊よ。イエス・キリストの御名によって命じる。

懐疑的な考えは忘れましたか？

今夜、癒されるために来ますか？

信じますか？

信じる方は「アーメン」と言ってください。

神があなたがたを祝福してくださいますように、友よ。

94 さて、これから写真を撮ります。

この写真をどうするか、お話ししましょう。私はそれを自分の部屋に掛けておきます。そして家にいるときは毎晩、その写真を見ながら祈るのです。

この写真を見て祈るときに、あなたのためにも祈ってほしいと思う方はどれくらいいますか？

神があなたの心を祝福してくださいますように。

明日の夜の礼拝をどうか欠かさないでください。そしてその次の夜には、私の生涯の証しをお話します。ぜひ聞いてください。

それでは、写真を撮る間、しばらく敬虔に立ちましょう。カメラマンが指示を出します。

(カメラマン:「皆さん、どうぞお座りください。」)

バルコニーの方は立っていただくと、もっとよい写真になるそうです。そうですね、カメラマン？ 立っていただいた方が、よりよい写真になりますか？

特にバルコニーの方々、そうですね。全体がよく写ります。

はい、バルコニーの皆さん、お立ちください。周りもどうぞ。

……

(このあと祈祷列が始まりますが、ブラナム兄弟はマイクから離れているため、録音ははつきりせず、以下の部分は完全ではありません。)

95 信仰によって、アベルはカインよりも優れた犠牲を神に捧げました。これにより、彼は自分が義人であるという証人を獲得し、神は彼の賜物を証言しました。天の父よ、私は今、私たちの愛するイエスを通してあなたが行ったことを証

もしできるなら、今夜ここで、あなたがた全員にこの列を通ってもらいます。

そして私は言うでしょう、

数週間のうちにオークランドには一人の病人もいなくなるだろう、と。

本当です。

しかし、それを与えるのは私の役目ではありません。

それは……【録音終わり】

22 「…信仰は、望んでいる事柄の実体であり、見えない事実の証拠である。」

では、この聖書の箇所はこの部分を取り上げましょう。「望んでいる事柄の実体」というところです。

三つのものがあります。希望、愛(チャリティー)、そして信仰です。そうでしょう？

さて、希望は一つの要素です。

信仰はまた別の要素です。

そして愛(チャリティー)も別の要素です。

チャリティーとは愛のことです。

私は多くの人が前を通るのを見てきました。愛らしい人々、本当にクリスチャンの人たちです。しかし、癒されるだけの信仰を持っていませんでした。

一方で、ある罪人が通り過ぎるとき、癒されるだけの信仰を持っていることもあるのです。分かりますか？

それはまったく別の要素なのです。

どれほどあなたが神に仕えているかということではありません。

それは、あなた自身が持っている一つの“要素”なのです。

今からお話しすることは、あなたの益のためですから、どうかよく理解してほしいのです。

23 数週間前、いや数か月前でしたが、私はほんの数晩だけ家に帰っていました。

その日、家の中や庭のまわりには、およそ三百人ほどの人々が集まっていました。

そして夜中の二時ごろ、妻が私をやっと寝かせてくれました。

私はベッドに横たわっていましたが、脚がつって痛んでいました……。

そこに横になっていると、家の前に一台の車が入って来る音がしました。

私は言いました。「ああ、また誰かが来た。」

妻は言いました。「いいわ、私が玄関に出てみます。」

彼女が戸口へ向かっている間に、私は眠ってしまいました。

そして、誰かがこう言っているのが聞こえました。

「この赤ちゃんは長い間ずっと病気なのです。」

小さな赤ちゃんが泣いていましたが、その泣き声はもはや人間の声のように聞こえないほどでした。

皆さんの中で私の小冊子『The Heavenly Vision(天の幻)』を読んだことのある方なら分かるでしょう……。

会衆の中で読んだことのある方、どれくらいいますか。「天の幻」を？

そうです、あれと同じような様子でした。

その小さな赤ちゃんは、生後八週か十週ほどでした。

そして一度も泣き止んだことがなかったのです。

母親は言いました。

「私たちは……ここへ来るために、一日中、そして一晩中、旅をしてきました。」

そしてこう言いました。

♪ 信じなさい、信じなさい。

何でも出来るただ信じなさい

ただ

92 ちょっと今。今夜、神が私たちの中にいると信じますか？信じますか？神があなたたちに救いを求めて泣いている人々を遣わされたと思えますか？神があなたに癒しを送ってくださったと思えますか？心から信じますか？それでは、両手で胸に当ててこう歌いましょう…

主よ、私は信じます、主よ、私は信じます

すべてのことは可能だ、主よ、私は信じる、

主を信じる、ああ、主を信じる、

すべては…

93 【録音終了】

……その時が来ました。私たちは、主がまもなく来られると信じています。

あなたはご自身の聖なる御子を栄光づけるために、その賜物をお送りになりました。主はご自身の教会を通して、聖なる御手を伸ばし、癒しておられます。

今夜ここにいる人々を助けてください。音楽が静かに優しく流れる中で、人々が信じますように。

父よ、もし私が何か間違ったことを語っていたなら、どうかお赦してください。そして人々に、今があなたが証しされた時であることを理解させてください。

あなたのしもべが自分の願いでここに来たのではなく、あなたの御心によって来たのだと、彼らが知りますように。

すべての懐疑的な思いを捨て、疑いを捨てて、今夜来て癒されますように。

私たちは、イエスの御名によって、そして御栄光のために、これを願います。

アーメン。

さあ、すべての疑いを脇に置きましたか？

神はキリストにあって世をご自身と和解させておられました。

今夜も、あなたの民のうちにおられる神を認めさせてください。どうかそれかなえてください、愛する父よ。あわれんで、彼ら一人一人を祝福してください。

そして神よ、今この時、私は家にいる小さな教会のために祈ります。今夜も礼拝を持ち、私が帰ってくるようにと泣きながら祈っているその人々のために。

国のあちらこちらから集まっている人々の中で、どうか私の小さな孤児の息子を守ってください、愛する神よ。

私はここで最善を尽くし、与えられた使命に従おうと努めています。どうか父よ、このことがどれほどの犠牲であるか、そしてあなたが人々のために何をしてくださったのかを、人々が理解しますように。

この日を認め、多くの人々が癒され、病から回復し、この町中で証しをしますように。

私たちは、あなたの愛する御子、イエス・キリストの尊い御名によって、これを願います。

アーメン。

91 友よ、人々は左右に倒れていきます。

ああ、あなたがたにもそれが見えたならと思います。でも——私は知っています。あなたがたは分かっていると信じています。神があなたがたを祝福してくださいますように。私は、あなたが信じてくださるという確信を持っています。

さあ、バンドが演奏する間、皆で歌いましょう。

「ただ信ぜよ(Only Believe)」

今、皆さん、声を高く上げてください。さあ、一緒に。

♪ 信じなさい、信じなさい

何でも出来る、ただ信じれば

(私はここに立っていられます。大丈夫です。マイクの後ろの影のところへ下がります……ここを通ります。)

「ブラナム兄弟が家にいると聞いたので、この子を連れて来たのです。」

24 ああ、そのかわいそうな小さな赤ちゃん……私はもう眠ることができませんでした。

それで外に出て、その赤ちゃんのために祈りました。

それから椅子に腰を下ろし、しばらく母親と話していました。

その家族は、はるか北オハイオから来ていたのです。

そして、そこに座っている間に——皆さん——

その小さな赤ちゃんは泣きやみました。

それまで昼も夜もずっと泣き続けていたのです。

ああ、それはこの世のすべてのお金よりも、私にとっては価値のあることでした。

そこにいて、私はふと見ると、母親が泣き始めました。

大粒の涙がぽたぽたと赤ちゃんを包んでいる小さな毛布の上に落ちていました。

年老いた父親はオーバーオール姿でそこに座っていました。

ここへ来るために、生活費の大半を使い果たしたであろうその人が、私に腕を回してこう言いました。

「あなたを愛しています、ブラナム兄弟。」

ああ、これまで鼓動してきた中で、

最もすばらしい心のいくつかは、あの古びた青いシャツの下で打っているのです。

本当に、そのとおりです。

25 それは、どんな服を着ているかではありません。

問題は、あなたの内側に何があるかです。(そのとおりです。)

そこで私は分かりました。

彼が本気で言っていることが。

それは偽善ではありませんでした。

心からの言葉でした。彼は本当に私を愛していたのです。

私はその赤ちゃんを見ました。

そして母親は、私が別の部屋へ入ったときには……【テープ空白】

私たちに向かってにっこりとほほえんでいました。

皆さん、それはすべてに値することではありませんか？

そうです。すべてに値するのです。

それから彼らは言いました……

妻が言いました。

「もしよろしければ、コーヒーか何かお作りしましょうか。」

すると彼らは言いました。

「いいえ、しばらくここで待っています。」

妻が言いました。

「でも……」

私は言いました。

「こうしましょう。私はこの椅子に横になりますから、お母さんたちをベッドへ行かせて、少し休ませてあげなさい。」

26 それで、そのご家族をベッドに休ませ、私は夜明けまで少しでも休もうと椅子に座っていました。

するとちょうどそのとき、また一台の車が家の前に止まり、若い男性が戸口までやって来ました。

「ブラナム兄弟ですか？」

最近それを受け取ったのは、アリゾナのスペイン語を話す人々でした。彼らはすぐに理解しました。それが神から自分たちに与えられた賜物だと知ったのです。

彼らはそのまま壇上へやって来ました。愛するスペイン人の母親たちが、私のところへ来る前に気を失って倒れ、列から運び出されるのを見ました。それほど信じていたのです。

そのうちの一人は、夢まで見ました。彼女は英語さえ話せませんでした、その超自然的な存在が立っているのを見たのです。

なぜですか？

神はご自身の賜物を証しされるからです。

そうではありませんか。

ああ、友よ。私が何を語っているか分かりますか。今、理解できますか。

信仰です。信じるのです。

来なさい。

それは人ではありません。人のうちにおられる神なのです。

私の言いたいことが分かるでしょう。

90 【録音終了】

……どうか、神よ。今夜、人々が使徒たちの時代のように来ますように。これは彼らにとっての使徒的な時代であると悟って来ますように。彼らが求めてきたもの——今ここにすることを知りますように。御体の癒しという形で現れている聖霊を。どうか与えてください、愛する神よ。今夜、多くの人が癒されますように。父よ、あわれんでください。

今夜ここに来るすべての人が、あなたのへりくだったしもベシモン・ペテロの前を通った人々のように来ますように。彼らはペテロの影に置かれ、完全に癒されました。なぜなら、人のうちにおられる神を認めたからです。

モーセのうちに神を認めたように。

キリストのうちに神を認めたように。

彼は顔を上げました。しわだらけの頬に涙が流れていました。

「牧師さん……」と言って、

「向こうを見てください。」

私は目を上げて見ました。そこには古い小さなドレスのようなものが置かれているように見えました。

「私にはドレスしか見えません。」

多くの人が、ただ自然のものしか見ないのと同じです。

「ドレスしか見えません。」

彼は言いました。

「その中に丸い跡があるのに気づきましたか、牧師さん？」

「はい、気づきました。」

彼は言いました。

「ここを触ってください。」

そして脇腹を指しました。

「ここに奴隷のベルトの跡があります。」

「そこにあるのは、アブラハム・リンカーンの血なのです。」

「アブラハム・リンカーンの血が、私から奴隷のベルトを取り去ってくれたのです。」

「それなら、私は帽子を脱いで祈らないでいられるでしょうか？」

89 今夜、もし一人の黒人の男性が、自分の自由と権利のために、アブラハム・リンカーンの血に対して帽子を脱ぐことができるなら、あなたがたクリスチャンは、イエス・キリストの御血に対して何をすべきでしょうか。

ああ、友よ。私はオークランドやロサンゼルスでも、もっと大きな信仰を期待していました。

私は目を覚まそうとしながら答えました。

「はい。」

彼は言いました。

「とてもお疲れでしょうね。」

私は言いました。

「ええ、そうです。」

彼は続けました。

「私はインディアナ州マレンゴから来ました。妹が虫垂炎で瀕死の状態、今朝手術を受けることになっています。来ていただけますか？」

それで……【テープ空白】……

私はヒューストンに置いてある、あの古いポンコツのフォードに乗り込みました。車の横は、膝で何度も打ちつけたためにへこんでいました。眠らないように必死で膝をぶつけながら、病人のために祈りに向かっていたのです。

一つの集会を終えては次の集会へ向かい、野原へ出て行くときには、車の窓から手を出して「神の祝福がありますように、神の祝福がありますように」と言いながら、実は眠り込んでいたこともありました。

ヒューストンから帰る途中のある日のことは、決して忘れられません。

クラクションの音が聞こえて、反対車線にいると分かったのですが、目が覚めなかったのです。

十五日間、昼も夜も病人のために祈り続け、素晴らしい御業を見てきました。

しかし、ああ、皆さん、もし私のいのちが短くなるとしても、

私が出て行くことによって、ほかの誰かが生き続けられるなら、それでよいのです。

27 その若い男性は言いました。

「私の妹が……」

彼は、自分がある教会に属していることを話しました。

ここでその教会の名前は申しません。適切ではありませんから。私は誰の宗教も批判しません。

とにかく、その教会は私にとっては最も強く反対する立場の教会です。

彼らは「神の癒し」などというものは存在しない、と主張しているのです。

そのとき私は、ミルタウン・バプテスト教会でリバイバル集会を開いていました。

多くの方が小冊子『Jesus Christ The Same Yesterday And Forever』で読まれたことでしょう。

そこに一人の若い女性がいました。

二十七歳で、体重は四十七ポンド(約二十一キロ)しかありませんでした。

ジョージ・カーターという名前で、結核を患っていました。

そして彼女も、その同じ教会に属していたのです。

近所の人々はこう言っていました。

「彼女が本当に良くなったら、私たちは信じよう。」

彼女は九年六か月もの間、寝たきりでした。

しかし、皆さん、彼女は今夜、ミルタウン・バプテスト教会で私のピアノ奏者をしています。

では、彼らは信じたのでしょうか？

いいえ。

たとえ死者がよみがえっても、彼らは信じないのです。

28 ところで、ある男性のことですが――

私が彼のもとへ行ったとき、彼は遺体安置所に横たわっており、三人の医師によって死亡宣告を受けていました。

ていました。

祈り終えたあと、彼は驚いたような表情をしました。目をぱちぱちさせながら、あたりを見回し始めたのです。

そして言いました。

「おい、あそこに車があるじゃないか？」

それは、私たちが乗ってきた車でした。

涙が彼の目から流れ落ちました。そして両手を上げ、喜びにあふれて賛美し始めたのです。

ああ、兄弟よ。神はご自身の賜物を証しされます。

天地は過ぎ去るかもしれませんが。しかし神は働かれます。

必ず受け取る者が現れます。

あなたが神があなたのためにしてくださったことを尊び、受け入れるなら。

そのとき、神はご自身の賜物を証しされるのです。

今こそ、始める時なのです。

88 よく聞いてください。

少し前、私はイリノイ州にいました。今、黒人の話をしていますが、それで思い出しました。

大きなコロシウムにいたのです。場所をご存じの方も多いでしょう。

あたりを見回していると、頭のまわりに白い髪が輪のように残った年長いた黒人の男性が、ゆっくり歩いてきました。

やがて、ある展示の前で立ち止まりました。帽子を脱ぎ、背中後ろに持ち、頭を垂れました。そして祈っているのが見えました。

彼が祈り終わると、私は近づいて言いました。

「失礼ですが、私は牧師です。あなたが祈っているのを見ました。あの箱の何がそれほど心を打ったのですか？」

そして私をこうしてつかみ、手を私の肩に置きながら、

「牧師先生……」

私は言いました。

「はい？」

86 彼は言いました。

「ちょっと待ってください、牧師先生。」

「私は遠いところから、ここへ来たのです。」

そして続けました。

「一昨日の晩、私の年老いた母が……もう二十年近く前に亡くなりましたが、あの人はクリスチャンでした。」

「私はもう十二年以上も盲目なのです。」

「そして昨夜……いや、一昨日の晩、夢を見ました。」

【テープに空白】

「神が神の癒しの賜物をお送りになり、それがアーカンソー州カムデンにある、と。そして、あなたを通り過ぎさせてはならない、と。」

彼は言いました。

「牧師先生、どうか私を通り過ぎないでください。」

あなたがたは思いますか、私が彼を通り過ぎることができた？

彼が誰であろうと関係ありません。

それは神なのです。

たとえどれだけ牢屋に入れられようとも、構いません。

87 その哀れな年老いた男性のそばに立ち、私は彼の手を取りました。爆発事故で目を失っていたのです。

彼の手を握り、祈りました。妻はそばで泣いており、涙が上着を伝って流れ

しかし今夜、その人はペンシルベニアの機関車を運転しています。

それでもなお、彼らは信じないのです。

本当です。本当にそうなのです。

彼らは信じようとしません。

今は、人々の目がこの世の思い煩いやさまざまな事柄によってあまりにも曇らされてしまっている時代です。

そのため、神を見ようとしません。

神は何度も彼らのただ中におられるのに、

キリストの時代と同じように、

彼らは気づかずに通り過ぎてしまうのです。

そして、主を見失ってしまうのです。

29 それで、その女性——いや、その男性が言いました。

「来てくださいますか？」

私は答えました。

「はい、行きます。」

彼は言いました。

「私が車でお連れしたほうがいいかもしれません。」

私は言いました。

「いいえ、自分で起きていられるようにします。」

妻は泣き出しました。

「あなた、どこかで眠ってしまうわ。」

私は言いました。

「大丈夫だよ、心配しないで。」

そして古い車に乗り込み、彼の後ろをついて走り始めました。

「彼の車を見ながら行こう」と思ったのです。

道を走りながら、私は自分の指をつねったり、噛んだり、唾をつけて目をぬぐったり、あらゆることをして目を覚まそうとしました。

不衛生に聞こえるかもしれませんが……

その子どものところへたどり着くためなら、何でもしようとしていたのです。

30 私たちは古い道をおよそ八マイル走り、ずっと奥まった田舎の地域へ入りました。

そこには十七、十八歳くらいの若い娘が横たわっていました。

ひどい状態でした。

私が部屋に入ると、彼女はとても神経質になっていて言いました。

「まあ……あなたがブラナム兄弟ですか？」

私は言いました。

「信じていますか、姉妹？」

彼女は言いました。

「ええ、信じています。私は……信じています。教会が何と言おうと関係ありません。私は信じています。」

彼女は、あのジョージ・カーターと同じ教会に属していました。

「教会が何と言おうと関係ありません。私は信じています。」と言ったのです。

やがて父親がやって来て、私と握手をしました。

そして私をベッドのところへ案内しました。

彼は言いました。

「先生、今朝この子は手術を受ける予定です。しかし……ここから連れて

84 あなたがたには分からないでしょう。

悪霊が出て行くとき、その場にいるその力を抑えることが、どれほどの重圧か。しかもその責任は私にあります。

もし建物の中で何かが起こればどうなりますか？ 彼らはすぐに私を捕らえて投獄し、集会は完全に打ち切られるでしょう。

その責任の重さは、簡単に語れるものではありません。

しかも、六か月間ほとんど休まずに働き続けた後なのです。すでに疲れきっているのです。

85 それで私は言いました。

「ちょっと待ってください。」

その人は、ただ泣いていました。灰色の髪をした、かわいそうな年配の男性で、帽子を手に持ち、「牧師先生、牧師先生」と繰り返していました。

奥さんが言いました。

「あなた、もう近づけないわよ。無理よ。」

しかし私は言いました。

「ちょっと待って。少しだけ。」

周りを見渡し、彼を見つめて言いました。

「どうなさいましたか、あなた？」

アダムズ兄弟ともう一人の方が、私をその人のところへ連れて行ってくれました。

私はもう一度尋ねました。

「どうしましたか？」

彼は震える声で言いました。

「牧師先生、牧師先生……」

82 ここアーカンソー州カムデンで、アダムス兄弟と一緒に。今夜アダムス兄弟の一人がここにいると思いますか？そして彼の家では、彼は私を引きずり出していました。私たちは何千人もの人々を礼拝に参加させました。そしてある日、彼らは私をサービスから引き離しました。そして、誰かが「“慈悲を、慈悲を」と叫んでいるのが聞こえ続けました。ああ、牧師さん、どこにいるんですか？”

そして私は振り返りました、アダムス兄弟は言いました、“あなたは止めることはできません。”それは有色人種の男でした。

しかし、アーカンソー州でも、有色人種の男性と握手すると刑務所に入れられるでしょう。つまり、彼らはそこにそのような法律を持っています。彼と話すことはできますが、彼に手を出さないでください。

さて、それは正しくありません。それは違う。彼は私やあなた、あるいは他の誰よりも優れた人間です。まさにその通りです。それについてどう思うかは分かりませんが、私はそれについて自分の魂を解き放ちたいと思っています。そうだね。確かに。私はエイブラハム・リンカーンの味方です、それで大丈夫です。そして見てください。..

83 そこに、一人の黒人の男性が立っていて、「ああ、牧師先生！」と叫んでいました。

アダムズ兄弟が言いました。

「さあ、ブラナム兄弟、こちらへ。」

「見てください、あの群衆を。押し寄せていますよ。」

そして彼らは私を人々の中から引き出しました。

それは決して冷たくするためではありません。皆さん、時には群衆の中で押しつぶされそうになることがあるのです。ほとんど踏み倒されそうになることもあります。だから引き離すのです。

私は彼らを愛しています。神がその心を祝福してくださいますように。

本当なら、そこに立って一人一人に触れ、息が尽きるまで祈り続けたいのです。

昨夜、建物を出るときには、ほとんど車の中に横たえられるような状態でした。心臓も体も震え、激しく打ち、あのような状態だったのです。

行く途中で持たないのではないかと心配しています。」

彼女をインディアナ州ニューオールバニまで運ばなければならなかったのです。

そこが最も近い病院で、ほぼ四十マイル離れていました。

しかも、その家から舗装道路までは八マイルほどあり、

ほとんど荷馬車がやっと通れるような、柵沿いの悪路を通らなければなりませんでした。

私はこれまで手術の手伝いをしたこともあり……

31 【テープ空白】……

そして私は分かっていました。

その子は病院までたどり着けない、と。

到着する前に死んでしまうだろう、と。

ここにも医師の方々が来られているかもしれません。

多くの場合、医師の方々が集会を聞きに来られます。

その子の脇腹は腫れ上がり、赤く変色していました。

虫垂はすでに破れており、いつ完全に破裂してもおかしくない状態でした。

私は何度もアデア医師——私たちの町の医師で、私の教会にも来ている方ですが——と一緒に手術に立ち会ったことがあります。

私たちは切開をして開き、

手術台の上で虫垂が破裂することもありました。

ときには腸を取り出して洗浄し、腹膜炎を防ぐためにきれいにし、

V字型に切開して管を入れ、排膿のためにドレーンを設けるのです。

そうして助かる場合もあります。

しかし、その子は……

虫垂が破裂すれば、まだ三十マイル以上も車で走らなければならなかったのです。

病院に着く前に、確実に死んでいたでしょう。

32 さて、皆さん、その娘は私を見つめて言いました。

「ブラナム兄弟、私……生きられるでしょうか？」

私は言いました。

「生きられると信じていますよ。」

それから私は尋ねました。

「では、あなたは信じていますか？」

彼女は言いました。

「ええ、信じています。もちろんです。教会が何と言おうと関係ありません。私は信じています。ジョージ・カーターが良くなったでしょう。私も良くなります。手術が怖いんです。」

そう言ったのです。(分かりますね?)

近所の人たちも何人か集まって来ていました。

33 さて、皆さん、ここであなたがたに伝えたいことがあります。

その娘は、自分では信じていると思っていました。

ちょうど今夜この列に来る多くのあなたがたと同じようにです。

あなたがたは「信じている」と思っている。

しかし、彼女は本当には信じていなかったのです。

あなたがたの中には、婦人病を抱えている方もいるでしょう。

あるいは胃潰瘍かもしれません。

そういう場合は、少し時間を取ることができます。

その赤ちゃんは小児麻痺で、両足が不自由でした。母親には連れて行く力がなかったのです。

そこで隣人が代わりに連れて行くことになりました。バスや路面電車を何度も乗り継ぎ、ようやく教会から二ブロックほどのところで降りました。

そこに警官が立っていました。

彼女は尋ねました。

「ヒューストン・ゴスペル・タバナクルはどこかご存じですか？」

警官は答えました。

「はい、奥さん。あそこに人だかりができています。あそこです。」

そしてこう言いました。

「今、癒しの集会をやっていますよ。」

81 その哀れな母親は、ようやくそこへたどり着いたときには、すっかり弱りきってしまいました。中に入ってその光景を見たとき、どんな気持ちだったか想像してみてください。

彼女はその出来事を私に話してくれました。

私は言いました。

「その赤ちゃんをこちらへ連れてきなさい。」

……ああ、その後どうなったか、もうお分かりでしょう。

ええ、そのとおりです。

たとえ人々がどう思おうとも、天の御使いたちはそれを知っています。神はご自身のわざを証しされます。

人が何を言おうと関係ありません。神の働きは明らかにされるのです。

それは真実です、友よ。

神があなたを祝福してくださいますように。

「起きなさい。その子を連れてヒューストン・ゴスペル・タバナクルへ行きなさい。神の癒しの賜物がそこにある。」

彼女はそれをただの夢だと思いました。ヒューストン・ゴスペル・タバナクルという名前を聞いたこともありませんでした。

しばらくしてまた眠り、二度目の夢を見ました。

再び大きな黒い雲が現れ、その中から亡き父が歩いてきたのです。

彼女は言いました。

「二度も父の夢を見るなんて不思議だと思いました。」

そして父は再び言いました。

「その子を連れて行きなさい。」

彼女は起き上がり、水を飲み、家の中を少し歩き回ってから、再び横になりました。

すると三度目の夢を見たのです。

再び大きな黒い雲が現れ、そして――

【録音終了】

80 彼らは、その夢が何を意味するのか確かめるために、電話帳の案内所に電話をしました。

私はすべての夢を信じるわけではありません。しかし聖書には、「若者は幻を見、老人は夢を見る」とあります。

彼女は案内所に電話をかけました。すると係の人が言いました。

「はい、ヒューストン・ゴスペル・タバナクルは西側の六十七番街にあります。」

「東六十七番街です。」

さて、その母親はとても弱っていて、自分では行くことができませんでした。

しかし、その娘は違いました。

それは緊急事態でした。

いのちがかかっていたのです。

何かがすぐに起こらなければならなかった。

それで私は言いました。

「姉妹よ、あなたの気持ちを傷つけるつもりはありませんが、あなたはまだ信じていません。」

ちょうどここにいる兄弟が言ったように、

あなたがどこに座っていようと、会堂のどこにいようと、頭を上げているときには私は分かるのです。

皆さん、覚えておいてください。これはあなたのために言っているのです。

私が言っているのではありません。神が示しておられるのです。

あなたが頭を上げていると、私は感じ取ります。

私の後ろであろうと、どこにいようとです。

昨夜も、後ろに座っていた一人の女性が頭を上げていました。

私はずっとそれを知っていました。

それは神とその人との問題です。

私にはどうすることもできません。

そのような態度は、ほかの人たちの妨げになることがあります。

しばしば、そうしたことが働きを妨げるのです。

34 それで、その娘は言いました。

「信じています、信じています、ブラナム兄弟。」

彼女は自分では信じていると思っていたのです。

しかし、よく聞いてください。

彼女には“希望”がありました。

けれども、信仰は望んでいる事柄の実体であり、見えない事実の証拠なのです。

分かりますか？

私は言いました。

「姉妹よ、普通の病気なら、少し時間をかけることもできるでしょう。あなたがそのくらいの信仰を持って外へ出ていく時間もあるでしょう。しかし、あなたは今すぐ手当てが必要なのです。私は正直に言います。あなたは病院を見ることもなく亡くなるでしょう。」

そのとき、両親はあまりそれを喜びませんでした。

しかし、私は正直でいたいのです。あなたに真実を知ってほしい。

あなたも正直に言ってほしいと思うでしょう？

覚えていてください、皆さん。

私は肉と血と戦っているのではありません。霊的な力と向き合っているのです。

全能の神の前で、私は正直でなければなりません。

自分の命の危険も、あなたの命の危険も知っているからです。

彼女は「信じています」と言いました。

しかし、実際には信じていなかったのです。

私は言いました。

「よく聞いてください。」

ここでよく注意して、一言一言を受け取ってください。

神がそこで許された小さな出来事を、あなたが理解できるようにです。

男の子を腕に抱き、降りた。そして彼女は本当に落ち着かなかった。そして、4人ほどの並んだ祈りの列がこのようにやって来ました。

そして彼女は立ち上がって言いました。“ちょっと待ってください、ちょっと待ってください。”そして皆が立ち止まった。

彼女は言いました。“私はその祈りの言葉を止めたくありませんが、あなたに伝えたいのです..”

彼女は本当に緊張して震えていて、ちょっと興奮していました。

79 彼女は言いました。

「私はヒューストンの西側に住んでいます。」

ヒューストンはかなり大きな町で、東西に何マイルもあります。私たちはそのとき東側にいました。

彼女は続けました。

「今朝、この子どもの母親——私の隣人ですが——彼女の父親は年老いたメソジスト派の牧師でした。」

「その方は二十年前に亡くなりましたが、生前こう言っていたのです。『異邦人の時代が終わる前に、神はユダヤ人にされたように、教会に再び癒しの賜物を与えてくださる日が来る』と、あちこちで説教していました。」

そして彼女は言いました。

「この赤ちゃんは、その牧師の娘の子どもです。」

「その母親は少し体が弱くて、今朝家の掃除を終え、モップを立てかけて、ベッドの足元に横になり休んでいました。」

すると突然、夢を見たのです。

大きな黒い雲が立ち上るのを見ました。そしてその雲の中から、何かがこちらへ近づいてきました。

すると、その亡くなった父親が現れたのです。

そして彼は言いました。

思うかもしれません。”

そして私は言いました、“どうしたんですか、先生？”

彼は言いました。“私はケンタッキー州パデューカに住んでいます。”彼は言いました。“私は約2年間健康を害しています。”彼は言いました。“先週、奇妙な夢を見ました。”彼は言いました。“私はインディアナ州ジェファーソンビルに来て、ブランナムという人に祈ってもらおうと夢見ていました。”“ここにブランナム家が住んでいるかどうか知っていますか？”と言いました

まあ、私の気持ちは分からないでしょうね。私は思いました、“ああ、神の証言です。”

そして私は言いました、“はい、先生。”私は言いました、“ここにブランナムさんたちが住んでいるのは知っています。”

彼は言いました。“あのね、病人のために祈る人はいますか？”

私は言いました、“私がその人です。”

彼は私をそのように見ていると、頬に涙が流れ始めました。彼はただ私の手を握っただけです。私は彼の手を取って帽子を脱ぎ、帽子と銃を帽子の中に置き、通りの脇にひざまずいて、通りのすぐそばで彼のために祈り始めました。

私が立ち上がると、母親たちが立って幼い子供たちを引き留め、帽子を脱いで祈りを待っている男性たちがいました。

ジェファーソンビルでは多くのことが行われており、彼らは何が起こっているのかを知っていました。そして私たちが立ち上がると、彼らは皆、頭を下げてそこに立って祈りを聞いていました。

私は立ち上がった。そして兄は私の周りに腕を回し、そのように私を撫で始めました。今日からあの日まで彼に会ったことがない。神は彼を癒した。

78 そして私はテキサス州ヒューストンのキッドソン牧師の集会に出席していました。そしてある朝、そこに立って、ああ、なんて考えていて、祈っていたんだろう。日帰り礼拝が行われていました。そして、何百人もの人々が列をなして癒されつつありました。

そして一斉に女性が駆け込んできた。ああ、建物はここのメインフロアにあるこの講堂とほぼ同じ長さでした。そして女性は後ろに走ります。彼女は小さな

そして、あなたに信仰があるかどうかを見てみましょう。

私は言いました。

「姉妹よ、あなたには信仰がありません。」

彼女は言いました。

「まあ、ブランナム先生、私はどんなことでも信じられる信仰があります。」

35 【録音終わり】……

「もしあなたに信仰があると言うのなら、

それが本当は信仰ではないことを示してあげましょう。」

私はそう言いました。

「さあ、よく聞いてください。一言一言をしっかり受け取ってください。」

その部屋のシャンデリアから一本の紐がぶら下がっていました。

その紐の先には小さなブレスレットが付いていました。

白いブレスレットで、小さな赤い飾りが付いていました。

おそらく子どもがそれで遊んでいたのでしょう。

部屋の中で振り回して遊んでいたのです。

皆さんの中にも、赤ちゃんをあやすために

ああして何かをぶら下げて揺らし、

気を紛らわせたり遊ばせたりすることがあるでしょう。

ちょうどそのようなものでした。

36 私はその小さなブレスレットがぶら下がっているのを見ました。

そして若い娘に言いました。

「あなたは、あのブレスレットからどれくらい離れていますか？」

彼女は言いました。

「だいたい十五フィートくらいです。」

私は言いました。

「ここにいる大人の方々、皆さん、私に背を向けてください。誰も傷つくようなことはしません。ただ、この娘に話をしなければならないのです。今、彼女が“理解しなければならない”からです。」

今夜、私があなたがたにこういう話をしているのもそのためです。

あと二晩しかありません。何かが起こらなければならないのです。

どうか、このことについて間違ったことを言って帰らないでください。

さばきの日に答えなければならないかもしれませんから。

「今すぐ何かが起こらなければならない」と私は言いました。

「ご両親も、背を向けてください。」

近所の人たちもそばに座っていましたが、

皆、椅子を回して私に背を向けました。

私はその娘に言いました。

「あなたは、すべてのことを信じる信仰があると仰いましたね。」

彼女は答えました。

「はい、あります。」

【テープ空白】

私は言いました。

「最後に食事をしたのはいつですか？」

彼女は言いました。

「三日ほど前です。水さえ胃にとどめておけません。」

あなたがそれを信じ、尊ぶなら、神はご自身の賜物を証しされます。

アベルのためにそうされました。

エリヤのためにも。

モーセのためにも。

ペテロのためにも。

パウロのためにも。

そしてすべての者のためにそうされました。

そして今日もまた、そうされるのです。

ペンテコステが最初に下り、聖霊のバプテスマが初めて注がれたとき、人々は言いました。

「それは狂信だ。」

しかし神は、それがご自身のものであることを証しされました。

だからこそ、私は今夜あなたがたと共にいるのです。それが神の御手であると知っているからです。

確かに、中にはそれを用いて極端に走った人々もいました。しかし、本物のペンテコステの実体は存在します。

神はそれを証しされました。それは真実です。

そして今夜もまた、別のかたちで、同じことをなさっているのです。

【録音終了】

77 そして私はドラッグストアに行くつもりでした。そして中に入ると、ある男が私を奇妙に見ていることに気づきました。私は店に入り、戻ってきて、ボトルキャップを持っていました。そして私は彼のことを決して忘れませんでした。そして私はまだ制服を着ていました。

そして彼は..を置きました 男は私の肩に手を置き、私を見ました；彼は言いました、“先生、” 言いました、“あなたが将校であることがわかりました。” 言った、“質問しようと思った。” 言った、“あなたは私がちょっと気が狂っていると

のです。

あなたに、今話していることを本当に見てほしいのです。

75 さて、ペンテコステの人々は、ここ三十年、四十年もの間、神の癒しの賜物を求めて祈ってきました。

私たちは、これまでで最も優れた医療科学の時代に生きています。

最高の病院があります。

最高の医師がいます。

最高の薬もあります。

それなのに、かつてないほど病気が増えているのです。

今夜も、何千、何万という尊い神の聖徒たちが苦しんでいます。彼らは何年も、何年も、神が教会に神の癒しの賜物を回復してくださるようと泣き叫び、祈り続けてきました。

そして三十七年前、神が御計画の中でそれを定め、送り出されたとき、多くの人々はそれを認めないまま通り過ぎているのです。

友よ、それに気づいていないのです。

76 今、それは成就しました。

こんなことは言いたくありませんが……神よ、あわれんでください。

友よ、国のあちらこちらで——フェニックスで、ヒューストンで、サンアントニオで、アーカンソーで——全土にわたって、何千という人々が、あらゆる病や患いから癒されています。

オークランドよ、自分の時を知りなさい。

いつの日か、私は神の裁きの御座の前であなたがたと再び会うでしょう。そしてその時、私が全能の神の真理をあなたがたに証したことを知るでしょう。

あなたがたはそれを求めて泣きました。

では、どうすればよいのですか？

虫垂炎がどのようなものか、皆さんもご存じでしょう。

彼女には高熱もありました。

37 私は言いました。

「もしあなたが心から信じているなら、そして今ここで信仰があることを証明できるなら……。さあ、そのプレスレットをまっすぐ見つめなさい。」

それは空中にぶら下がっていました。

「そして、そのプレスレットを部屋の中でぐるぐる回るように動かしてみなさい。それから前後に揺らしなさい。そして止めなさい。そうしたら、私はあなたに信仰があると信じましょう。」

彼女は言いました。

「まあ、ブラナム兄弟、どうしてそんなことを私に求めるのですか？」

私は言いました。

「あなたに信仰があるかどうかを見たいのです。イエスはこう言われました。『信じる者には、すべてのことが可能である。』」

38 さて、それは“純粋な信仰”の話です、皆さん。

手品師なども、いたずらをしたり、コップを割ったりするのに、それを使うことがあります。

もし本当に信じるなら、そういうことも起こり得ます。

しかし私は、あなたがたの思いを「信仰」というものに向けさせたいのです。

私が何を言おうとしているのか分かるようにです。

ですから、今は静かにしててください。

しっかり受け取ってください。

目を覚ましていてください。

これを話し終えたとき、

あなたはその意味が分かるようになるでしょう。

39 すると彼女は言いました。

「そんなこと、ブラナム兄弟、誰にもできません。」

私は言いました。

「いいえ、信じる者なら誰にでもできます。」

彼女は言いました。

「でも、そんなことができる人がいるとは思いません。」

私は言いました。

「あなたは、すべてのことを信じると言ったではありませんか。」

ほら、そこで彼女は行き詰まったのです。

「あなたは、すべてを信じると言いましたね。それを証明してほしいのです。」

彼女は言いました。

「そんなことができる人はいないと思います。それは物質的なものですから、ブラナム兄弟。」

そして尋ねました。

「あなたにできますか？」

私は言いました。

「はい、できます。」

彼女は言いました。

「では、実際に見せていただけますか？」

私は言いました。

「望むなら。」

そしてそれは使徒たちではありませんでした。モーセ、彼の機知、そして知性がモーセだったので、モーセが一配達人だったと思いますか？なんだ、彼は口が遅い男だと言ったんだ。それはモーセの中の神であり、人々への贈り物でした。それはキリストにある神でした。彼は言いました。“それは私ではありません。私の中に住んでいるのは私の父です。”

それが、マルタが言った理由です。“主よ..”(昨夜の説教)言ったのです。“私はあなたがキリストであり、一この世に来るべき神の子であることを知っています。”彼女はそれを信じた。そしてそこで人々は彼を信じました。

74 ペテロのことを考えてみてください。

彼もまた、私やあなたと同じように、罪ある肉に生まれたただの人間でした。

しかし、人々には癒し主が必要でした。それで神は、特定の働きのためにペテロを遣わされたのです。

ヨハネは愛でした。ペテロには、ヨハネのような愛はありませんでした。ヨハネは神の愛の器でした。

また、主がペテロ、ヤコブ、ヨハネを連れて行かれたことを思い出してください。

望み、信仰、そして愛。

賜物を持つ三人——望み、信仰、愛。

望みはヤコブの中にありました。彼は教会を整える役目を担いました。

信仰はペテロの中にありました。

愛はヨハネの中にありました。

望み、信仰、愛——それは地上における神の代表でした。

人々はペテロの影の中に横たえられ、そして癒されました。

ああ、友よ。どうか、私があなたがたに怒鳴っていると思わないでください。興奮していると思うかもしれませんが、そうではありません。

私はただ、自分の言いたいことを、あなたの心に届くほど近くまで伝えたい

70 さて、見てください。人々がどのように失敗するかです。さて、モーセはこう感じました、彼がどう感じたか想像します。彼はただ、それが自己高揚になると思ったので、すぐに出てきて人々に話すのが嫌いでした。彼は人々がこう言うだろうと思った。“さあ、あの男を見てください。”

今日、私たちは世界でそれをたくさん経験してきました。多くの人が「“神はこれをし、神はあれをした」と言いました。”しかし、神はそれについての記録を持っていませんでした。しかし、もし神が記録を残しているなら、神はご自身の賜物を尊重されるでしょう。そうか？

71 はい、先生、神はアベルの一の賜物を尊重されました。彼はモーセの賜物を尊重しました。そしてモーセは民が理解してくれるだろうと考えました。しかし、彼らは理解できませんでした。

そして今日、私が何を言っているのかを知るために、人は今あなたがいるものよりも近づく必要はないようです。わかりました、でもそれは大多数の頭を超えています。そして、皆さん、私はあなたを愛しています、そしてあなたが元気になるのを見たいです。

さて、彼らが救い主を求めたとき、神は救い主を遣わしましたが、彼らはそれを見ることができませんでした。モーセはイスラエルに対する神からの贈り物だったのです。信じますか？

72 下には預言者エリヤ、それらは神の贈り物でした。彼らの多くは偽預言者を立てました。エリヤの時代に偽預言者が立ち上がったが、神はエリヤの預言について証言した。それが神のものなら、神はそれを証言するでしょう。そしてエリヤがいました、そして彼はイスラエルに対する神の贈り物でした。信じますか？

彼はアハブの牧師でもありました。彼はイゼベルの牧師でした。彼女は彼が自分の牧師であることを認めたくなかったが、彼は彼女がどこに住んでいるかを彼女に告げた男だった。そうだね。彼は彼女の牧師でした。彼女は彼を憎んでいましたが、それでも彼は、彼女に罪を知らせるために、そこで神から与えられた贈り物でした。そして彼女は彼に会うことができませんでした。私が何を言っているか知っていますか？

73 イエスが来る。そしてイエスは.. 聞く。イエスはイスラエル、世界に対する神の贈り物でした。そうか？イエスは神の賜物でした。“神は世界をととも愛したので、独り子を与えました。”信じますか？[記録終了]

彼女は言いました。

「望みます。」

40 それで、もちろん、私は心をそれに集中させ、彼女には私ではなくそのブレスレットを見るようにさせました。

ちょうど集会でよくあるように、もしこの会場に斜視の子どもがいれば、祈りもしないでここに連れて来てください。ただその子の目をまっすぐ見つめるだけで、目をまっすぐにさせることができます。

しかし、私が顔をそらすと……【録音終わり】

41 そして私は彼女を一つの実例として用いたのです。

彼女は列の後ろに戻りました。

二、三日しないと順番が回って来ないだろうと思っていたのです。

しかし、そのとき順番が来ると、彼女は言いました。

「ブラナム兄弟、あなたは私に列に戻るように言いました。」

そこには何百人もの人があふれ、

早朝から立ち続け、外で雨に濡れながらも中へ入って祈ってもらおうとしていました。

そして神がその場で彼女の目を癒されたとき、

両目はまっすぐになり、完全に正常になりました。

彼女は喜びながら出て行きました。

わかりますか？

それが、あなたの信仰と、神の信仰との違いなのです。

42 それで私は、あのブレスレットに目を据えました。

あなた自身も、心で疑わなければ可能です。

すると、それが動き始めました。

ぐるぐると回り、前後に揺れ、横にも動き、そして止まりました。

彼女は言いました。

「ブラナム兄弟、それは心霊術です。」

私は言いました。

「あなたがそう言うだろうと思っていました。」

神を知っていると公言しながら、

実は神についてほとんど知らない人がいるというのは、不思議ではありませんか？

そうではありませんか？

彼女は言いました。

「私たちはキリストの教会に属しています。」

(失礼しました。キリストの教会の方々、そういう意味で言ったのではありません。)

そして言いました。

「私たちは聖書が語るところで語り、聖書が沈黙するところでは沈黙します。」

あなたがたもその標語をご存じでしょう。

私はそれについて何度か問いかけたことがあります。

私は言いました。

「分かりました。」

彼女は言いました。

「そんなことが聖書に書いてあるはずがありません。」

私は言いました。

「あなたがそう言うだろうと思っていました。もちろん、聖書にありますよ。」

69 神は物質の中におられるのではありません。神は人の中におられるのです。

聖霊が下ったのは組織の上ではなく、人の上でした。

ところが今日、多くの人があります。「あの人は私たちの信仰に属していない。」

もしあなたがキリストの信仰を持っているなら、同じことではありませんか。神にとって、あなたの組織は問題ではありません。

人々は今や、まるで巨大な組織化された世界の中にいるかのようです。だから私は、教会堂よりも講堂のほうがよいと思うのです。

ワンネス教会で開けば、三位一体の人々は来ません。

三位一体の教会で開けば、ワンネスの人々は来ません。

メソジスト教会で開けば、バプテストは来ません。

バプテスト教会で開けば、メソジストは来ません。

ある人が言いました。「祈ってもらうためには、もう一度バプテストを受けるべきでしょうか？」

ああ、それは異教的な考え方です。

「一つの御霊によって、私たちはみな一つの体にバプテストされた」のです。あなたが誰であれ、どこに属していようと関係ありません。

どの組織に属しているかは問題ではありません。バプテストであれ、メソジストであれ、ペンテコステであれ、何であれ関係ありません。

必要なのは、神に対する信仰です。

正直に言えば、どの教会に属していなくてもよいのです。しかし、癒された後で再び罪の中に戻れば、以前よりも悪い状態に戻ってきます。

だから、その後はどこかの教会に行き、神に仕えなさい。

神は悪魔の栄光のために癒されるのではありません。

ご自身の栄光のために癒されるのです。

そして、もし私が神の癒しの賜物について話しても、神がそれを証言しないなら、それは放っておいてください；それは間違っています。しかし、神がそれを証言するなら、それがあなたへの神の賜物であると信じてください。そうだね。私の言いたいことがわかりますか？

67 友人たちよ、このようにこれを公表するのは嫌だが、私はあなたがその境界線の間を歩き来していると信じている。さて、注意してください。ほら、それは神の贈り物です。イエスの後、イエスが去られたとき…彼は取り上げられた。癒されることのなかった多くの人々がイエスのもとに来ました。彼は、信じなかったために何の成果も得られなかった多くの人々のために祈りました。彼らは彼が神の子であるとは信じていませんでした。彼らは言った、「なぜ、神はご自身を神にしてくださるのです。」。神は地上の罪、すなわち冒瀆を赦します。”見ないの？

彼らはエリシャについてそう言いました。彼らはモーセについても同じことを言いました。“なぜ、私たちは荒野で飢えるためにここに連れ出されるよりも、エジプトで死んでいたらよかったの”と思います。”

ほら、神の使者は常に拒否されてきました。私が何を言っているのかわかりますよね？そう願っていますよ、皆さま。神様があなたの心を祝福してくださいように。I—見てもらいたいんです、皆さん。

68 さて、彼らは救い主を必要としていました。神は救い主のためにキリストをこの世に送りました。

そしてイエスが去った後、神の愛する民の多くは病気になり、苦しみました。神はペテロに神の癒しの賜物を与えました。さて、人々が癒されたのは、神が預言者エリシャ、救い主モーセ、子キリストを通して証しされたのと同じように、ペテロを通して神の癒しの賜物を証したからです。彼はピーターを通してヒーラーとして証言しました。彼がやったのか？そして人々はそのアイデアを思いつきました。そして彼らは大勢の人々を集めたので、ペテロは彼ら一人一人のために祈ることができず、この使徒が彼らへの神の贈り物であることを知っていました。そして彼は決して彼らの手を振って、「“神のご加護がありますように”」とは言いませんでした。彼らは建物の外にいる人々を連れて通りに寝かせ、彼の影さえも彼らの上を通り過ぎて癒されるようにした。そうか？なぜ？なぜなら、彼らはペテロが神から民に送られた癒しの賜物であることを知っていたからです。ああ、見ていただければ幸いです、友達、見てください。ほら、それは神の贈り物だったんです。さて、お聞きしたいのですが、ピーターは治癒を行ったのでしょうか？[記録終了]

彼女は言いました。

「私は……信じません。」

「そうですか。」と私は言いました。

「信じないのですか？」

彼女は言いました。

「いいえ。聖書のどこにあるのか、見せてください。」

43 私は言いました。

「ある日、イエスが一本の木のそばを通られました。実を探されたのです。しかし実はありませんでした。そこでイエスはその木をのろわれました。すると木は枯れ始めました。そして昼にそこを通りかかったとき、その木はしおれていたのです。ペテロはそれを見て、どれほど早く枯れたかと驚きました。するとイエスは言われました。『この木に向かって、海に投げ込まれよ、と心の中で言い、疑わなければ、そのとおりになる。』と。」

主はそう言われましたか？

そして私は続けました。

「またイエスは言われました。『この山に向かって、動いて移れ、と言い、心に疑わなければ、それはそのとおりになる。』と。」

主はそう言われましたか？

もちろん、言われました。

私は言いました。

「あなたの不信仰な牧師が、自分の不信仰を正当化するために、それは“罪の山”のことだと言っているのは知っています。私も学校へ行きましたよ。イエスはオリーブ山のそばにおられました。あれはオリーブ山でした。もし心で『動け』と言い、疑わなければ……。」

そして私は言いました。

「では、どれほどの信仰が必要でしょうか？」

主は言われました。

「もし、からし種ほどの信仰があれば……。」

私は言いました。

「もし、からし種ほどの信仰であの山が動くのなら、あの小さなプレスレットを動かすには、どれほど小さな信仰で足りるでしょうか？」

44 分かりますか、私の言っていることが。

私はよく思ったのです。なぜ主は「からし種」と言われたのだろう、と。少しこの考えを挟みましょう。

からし種は、すべての種の中で最も小さいものです。確かにそうです。しかし、からし種には混ざりものがありません。全部がからしです。ケールや他のものと混ぜて育つことはありません。純粋にからしなのです。

もしあなたがそのような信仰を持っているなら——混ざりもののない信仰、何かと混合していない信仰——求めるものは与えられます。しかし、それは揺れ動くものであってはならない。本物の“からし”でなければならぬのです。私の言っていることが分かりますか。

それで私は言いました。「どれほどの信仰が必要でしょうか。」

すると彼女は言いました。

「ちょっとお聞きしますが、あれを動かしたのは神ですか、それとも悪魔ですか。」

私は言いました。

「どちらでもありません。」

彼女は言いました。

「では、どうして動いたのですか。」

私は言いました。

「私が動かしたのです。」

彼女は言いました。

がわかりますか？彼らはモーセを理解していませんでした。そしてモーセは、確かに、自分が彼らを救う贈り物であることを彼らが理解してくれるだろうと考えました。しかし、彼らは理解できませんでした。

そして今、友人たちよ、誤解しないでください。私は永遠に縛られた人間であり、いつか裁きの前に立つことになること知りながら、心の中で敬意を持ってこれを言ってもいいでしょうか。

何千人もの人々が贈り物を失っています。ほら？彼らはそれを理解できない。そして彼らは見てこう言うでしょう。“ああ、彼はただの男です。”

それは本当です。民を救ったのは神だったのか、それともモーセだったのか？モーセの中の神でした。ほら？彼らは配達人のために泣きました。そして、神が救い主を彼らのところに遣わしたとき、彼らはそれを見ることができませんでした。なぜなら、それは人間によるものだったからです。しかし、それは人間ではありませんでした。それは人間の中の神でした。[記録終了]

66 “…それは私の中に住んでいます。彼は仕事をする人です。”分かりますか？しかし、彼は世界への神の贈り物でした。神はあなたと私のために神を与えてくださいました。嬉しくないの？ほら、神は彼に与えてくれたんだ。

さて、神が神を与えてくださると信じていた人々は救われることができます。しかし、それを信じない人は救われません。そうか？

そして、王国に入る他の方法はまったくなく、神によってのみです。そうか？さて、信じれば救われるでしょう。しかし、それを信じなければ救われることはできません。なぜなら、神は神の賜物だからです。

ほら、聖書にはこう書かれています、“いや、男じゃない.. 神がキリストと共におられたことを私たちは知っています。なぜなら、神がキリストと共におられること以外には、神が行った業を行うことはできないからです。”そうか？

じゃあ何だった？神はそれがご自分の独り子であると証言していました。そうか？神はそれを証言し、こう言いました。「“これは私の息子です。”」彼は言いました。“わたしを信じないなら、仕事そのものを信じなさい。”そうか？彼は言った、「“その人は自分自身を証言します”聖書がどのように書かれているかはお存知でしょう。“しかし、もし—もし彼が証言し、彼の言うことが真実ではないなら、私を信じないでください。”しかし、もし私が証言し、私の言うことが真実であるならば、私の父もそれを証言するでしょう。”

くれ、友達。私が長い間いなくなった後、人々があなたの教会に来てこう言うのが聞こえるでしょう。“そうですね、その癌は消えました。”“それ—私が患っていたあの難聴、なぜ、私—今聞いています。”“私の苦しみ、なぜ、それは私を去ったのです。”

63 それはただシンプルさです.. それはあなたが自分で取り組むことができるものではありません。興奮じゃない。人々が列に並んで、ただ体を震わせて、「ああ、神様、ハレルヤ」と言っていることに気づきました。アーメン。神に栄光あれ。”

そんなことするな。あなたはそこで信仰を妨害します。あなたは神に干渉します。敬虔に上がってきて、手を上げて信じてください。それだけです。信仰よ、あなたはそれに取り組まないのです。信仰はすでにあなたの心の中にあるものです。あなたはただ来て信じるだけです。私の言いたいことがわかりますか？

ああ、友達、愛しています。あなたを愛していなかったら、私はあなたとそんなに率直に話さなかったでしょう。でも、私はあなたをとっても愛しているので、あなたがこれなしでやっていけるのを見ることはできません。わかりますか？あなた—あなたは理解しなければなりません。

64 さて、私のテキストをすぐに確認して、急いでください。神はアベルの賜物について証言しました。神は常にご自身の賜物を証ししてくださいます。そうか？

さて、イスラエルの子らがエジプトで四百二十年奴隷状態にあり、ヨセフが下って行ったときにエジプトに運ばれたとき、気づいてほしいのですが.. そしていつの間にかヨセフを知らないヨ—またはファラオが立ち上がりました。そして人々は束縛されました。そして彼らはわらや無精ひげからわら家やレンガなどを作らなければなりません。そして彼らは救い主を求めて神に叫び始めます。そうか？そして彼らは泣き続けました。そして神は救い主をあらかじめ定めておられました(そうですか?)、モーセ。

65 そしてモーセは成熟した年齢に達すると、外に出て二人のエジプト人がヘブライ人を虐待しているのを見て、エジプト人を殺して埋葬しました。そして翌日、彼が互いに努力しているヘブライ人たちに会ったとき、“なぜ”彼らは言った、“エジプト人と同様に私たちを殺しますか？”

さあ、ほら、静かにしてください。モーセはまさに救い主であり、人々への神の賜物でしたが、彼らは彼のことを理解していませんでした。私の言いたいこと

「でも、あなたは十五フィート以上も離れているではありませんか。」

私は言いました。

「いいえ、私の信仰が動かしたのです。」

もし何かを求めて疑わなければ……わかりますか。

45 【レコードに雑音】……信仰についてですが、あなたは自由意志を持つ存在です。人間です。

心の中で拒むこともできます。もしあなたが拒むなら、私はあなたに触れることさえできません。

イエスが多くの力あるわざを行えなかったのは、なぜでしたか？

(会衆「不信仰のため」)

そのとおりです。

ご覧なさい。人々がどれほど信仰を知らないか。実に驚くべきことです。信仰について多くを語りながら、その実、ほとんど理解していないのです。

46 すると彼女は言いました。

「では、その部分は神とどう関係があるのですか？」

私は言いました。

「よく聞いてください。私が生まれる前から、神の癒しの賜物を持つようにあらかじめ定められていたと、御使いが部屋に来て告げたのです。ある夜、その御使いが部屋に現れ、神がこの賜物を人々のために与えられたのだと語りました。そして、もし私が人々に“私を信じさせることができ”、祈るときに誠実であるなら、その祈りの前に立ちはだかるものは何もない、と。」

私は言いました。

「私はその超自然的な存在と顔と顔を合わせて語りました。ですから、心からそれを信じています。そして、もしあなたが心から私を信じるなら、それが神を動かすのです。そしてあなたは癒されるのです。あなたの信仰があなたを救ったのです。」

分かりますか？

あなたの“信じる信仰”が、あなたを救ったのです。頭の中で無理に思い込んだことではありません。本当に知っていること——見えないものの確信、それが信仰なのです。

するとその女性は言いました。

「ブラナム兄弟、私は今まで到達したことのない、何か上のものがあると本当に感じます。心から信じてみます。神があわれんでくださいますように。どうか、信じさせてください。」

私は彼女の手を取りました。そのとき、破裂した盲腸から振動が伝わってきていました。彼女のために祈ると、それは即座に止まりました。

私は言いました。

「神があなたを祝福しますように、姉妹よ。あなたの信仰が、今あなたを救ったのです。」

47 しばらくして、私は椅子に座ったまま眠ってしまいました。夜が明けかけていました。家に戻る前に少し休まなければならなかったのです。というのも、このままでは途中で倒れて事故を起こしてしまうのではないかと心配していたからです。

そこに座っていると、家族の一人に起こされました。救急車を呼んだそうですが、もう必要はないと伝えたとのことでした。

目を覚ますと、その少女はベッドから起き上がり、パイントほどのアイスクリームを食べていました。そしてその日から今日まで、一度も手術のメスを入れることはありませんでした。

彼女はポーチに立ち、手を振ってこう言いました。

「さようなら、ブラナム兄弟。」

彼女の証しは、少し前に『ヘラルド・オブ・トゥルース』にも掲載されました。インディアナ州ミルタウン、あるいはデポールのエディス・ライト夫人——それがその方です。

48 よろしいですか。

すか？

そして信仰はそのポジティブなものです。それは前向きな行為です。知ってるだろ。ああ、私の言いたいことがお分かりいただけると思います。

59 ほら、それは期待されているものの本質であり、見られていないものの証拠です。見えないだろ。味見はしないだろ。誰かが言う、“気分は良くなるらない。”

さて どうしたんですか？気分は良くなるらない？もしあなたが信仰を持っているなら、あなたの信仰に従ってそれがあなたに与えられます。そうか？ほら？

どう感じても、とにかく治ります。何を見ても、とにかく治ります。私の言いたいことがわかりますか？それは... 知ってるだろ。心から取り除くものは何もありません。知ってるだろ。そこはただのポジティブな行為です。ああ、私の。

友よ、もしそれを見ることができたら、何かが起こるでしょう。私が何を言っているのかさえわかれば、今何かが反応するでしょう。ほら？ポジティブだ。それはまさにそこにあり、他の五感と同じくらいポジティブです。これらは自然人のもです。信仰は神からのものです。生まれながらの人間は間違っているかもしれないが、神は間違っていることはできない。ああ 何と。

60 だって、叫んでしまうから。考えてみてください。そして人々は私に信仰を持っていると言い、神の癒しを信じられないと言うのでしょうか？友人たちよ、神の癒しを信じなければ、あなたは道に迷ってしまいます。そうだね。神がこの体を補修して神の栄光を現すほどの信仰を持ってないなら、神がこの老いた死すべき者を奪い、そこから不死性を作り出してそれを奪うと信じる信仰をどれだけ持つことになるのでしょうか。それは直接的な神の癒しです。ああ、審判の日、復活の時には、ひどい失望が起こるだろう。そうだね。

61 信仰... エノクのように翻訳されるまで、私たちはそのような場所に到達しなければなりません。そうだね。信仰、証言、それが神を喜ばせたということ。エノクはそうしなかった... 私たちの次の聖書には、エノクは神を喜ばせたという信仰による証言があったと書かれています。そうか？そして聖書は言いました。“信仰がなければ神を喜ばせることは不可能です。” ですから、自分が信じているのと同じ種類の信仰を持ち、それを知らなければなりません。[記録終了。]

62 多くの奇跡がそれとともに行われますが、奇跡の賜物ではなく、癒しの賜物です。しかし、それは癒しの贈り物です；人々は元気になります。彼らは外に出て、祈り、そして戻ってきます。そして、彼らは治りました。街を出るまで待つて

私はそれを聞き、それが音楽だと知っています。

(「本当に確かですか?」)

確かです。あのご婦人が「ただ信ぜよ(Only Believe)」を弾いています。

皆さん、私が正しいと思いますか?

言い負かせますか?

私はそれを見ていません。

味わっていません。

触れていません。

匂いもかいでいません。

しかし、聞いています。

私は確信していますか?

自分が正しいと知っていますか?

なぜですか?

それは、聴覚という感覚が直接それを証明しているからです。

57 さて、体の五感があります。さて、彼らはポジティブですよ?それがいつ起こるかはご存じでしょう。知ってるだろ。さて、あなたは聴衆を見ている。あなたは私を見ていることを知っています。

さて、それでは友人たち、信仰.. ここです。信仰は望まれるものの本質であり、見られないものの証拠です。ポジティブだ。知ってるだろ。それについてこれ以上誰かがあなたに話す必要はありません。それは、身体の他の五感と同じくらい明確に宣言されています。言いたいことは分かる?私の言いたいことを今一般的に理解している人は何人いますか?手を見てみましょう。ほら、ほら?

58 それはあなたが自分に信じ込ませようとしていることではありません。たとえば、今では、自分が音楽を聞いていることを自分に信じ込ませようとしています。I—私はそれをしません。香水の匂いがすると自分に信じ込ませてもいいですか。ただそこにはないだけです。絶対にやらなきゃ。私の言いたいことがわかりま

今、信仰とは何かをご覧ください。

皆さん、このことは少なくともご存じでしょう。この体は五つの感覚によって支配されていますね? そうでしょう。

味覚、触覚、嗅覚、聴覚、そして視覚。これら五つの感覚が人間の体全体を支配しています。

よく聞いてください。

味わう、触れる、嗅ぐ、聞く、見る——この五感の中に、信仰を宣言するものは一つもありません。

信仰は第六の感覚です。ある人はそれをテレパシーだとか、さまざまな名前で呼びます。しかし私にとって、それはただ信仰です。

そしてそれは、人間の五感を超えたところにあるものです。

信仰は、唯一の直接的で確かな感覚です。第六の感覚なのです。

信仰は視覚よりも大きいものです。

信仰は感覚よりも大きいものです。

あなたは信仰を「感じる」ことはできません。

信仰を「味わう」こともできません。

信仰を「嗅ぐ」こともできません。

信仰を「見る」こともできません。

信仰とは、望んでいる事がらを保証するものであり、目に見えないものを確信させるものなのです。

49 ここに、この聖書がありますね。

今、私はこの聖書が欲しいと思っています。見えています。そして欲しいと思っています。

信仰とは、望んでいる事がらの保証であり、目に見えないものの確信です。

分かりますか。

たとえば、私のポケットの中に、長年持ち歩いている古いバーローのナイフがあるとしましょう。今、私はそのナイフを見ていません。触れてもいません。味わってもいません。匂いもかいでいません。

しかし、私はそれがそこにあると「知っています」。

どうして分かるのですか？

それがそこにあると信じているからです。

もしそこになかったとしても、信仰はそれをそこに置くことができる——もし本当に信じるなら、です。

今の言葉は、あなたの心をつまづかせるかもしれません。しかし、それは真理です。

「信じるなら、すべてのことが可能である」と主は言われました。

あなたがたは神をそのまま受け取ることを恐れているのです。怖がっているのです。

確かに、私は着替えたときに、そのナイフをドレッサーの上に置き忘れたかもしれません。しかし、もし今それがドレッサーの上にあったとしても、心から信じるなら、それは私のポケットにあるでしょう。

驚くでしょう。しかし、神はそれをそこに置くことができになるのです——あなたが本当に信じるなら。

50 では、少しお見せしましょう。キッドソン牧師、こちらへ来ててください。モース姉妹ですか？ 少し立っていただけますか。

皆さん、今からお見せします。ここに立ってください。姉妹、これはあなたを見せ物にするためではありません。神の栄光のためです。

さて、皆さん、よく見てください。

今、私の前に一人の女性が立っていると、私は信じています。私が間違っていると云えますか？

（「女性の声は聞こえませんか？」）

見えません。

（「聞こえませんか？」）

聞こえません。

（「味わっていませんね？」）

味わっていません。

（「触れていませんね？」）

触れていません。

（「では、なぜ香水だと分かるのですか？」）

匂いをかいだからです。

嗅覚が、それが香水であると直接証明したのです。

私は見ませんでした。目は閉じていました。味わってもいません。触れてもいません。聞こえもしませんでした。

しかし、匂いをかぎました。

そしてそれは、それが香水であるという直接的な証拠でした。

私は知っているのです。

【録音終了】

56 では……

（キッドソン兄弟は言います「音楽を触っていませんね？」）

触っていません。

（「味わってもいませんね？」）

味わっていません。

（「では、なぜ音楽だと分かるのですか？」）

聞いているからです。

(キッドソン兄弟「オレンジは見えませんか?」と言います)

見えません。

(「聞こえませんか?」)

聞こえません。

(「触れていませんか?」)

触れていません。

(「匂いもかいでいませんか?」)

かいでいません。

(「では、なぜオレンジだと分かるのですか?」)

味わったからです。

確信しています。あれはレモンでも、ぶどうでも、グレープフルーツでもありません。オレンジジュースでした。

なぜ分かるのですか?

味覚がそれを証明したからです。

見てもいない、聞いてもいない、触れてもいない、匂いもかいでいない。それでも味覚が「これはオレンジだ」と直接的に証明したのです。

水だと言われても、私はオレンジジュースだと知っています。味わったからです。

同じように、あなたに味覚があれば、あなたも同じことを知るでしょう。

そして——信仰を持っているなら、私が今語っていることを同じように知ることができます。

では、もう一度見てください。

私は今、香水の匂いをかぎました。

(「見えませんか?」)

いいえ、聞こえません。

(「触れてもいませんか?」)

いいえ。

(「味も匂いも分からないでしょう?」)

そのとおりです。

では、どうしてそこに女性がいると分かるのですか?

それは「視覚」という感覚が、女性が立っているのを見ているからです。

私は確信しています。そこに女性が立っています。

皆さん、私が正しいと思いますか?

しかし、私は間違っている可能性がありますか?

あります。私たちの目は、欺かれることがあるからです。盲目にされることもあります。それは幻かもしれません。

覚えていてください。五感は決して絶対的ではありません。

しかし信仰は確かなものです。

51 今、そこに女性が立っていると私は知っています。なぜなら、「視覚」という感覚が、そこに女性が立っていると告げているからです。

分かりますか?

もしあなたが「そこには女性など立っていない」と言って、私と議論しようとしても、無理でしょう。

一度やってみてください。

「あなたは女性を見ていない」と言ってみてください。

私を言い負かせますか?

できません。なぜなら、私は今この視覚によって、確かにその女性を見ており、彼女がそこに立っていると知っているからです。

けれども、今私が知っているのは、ただ視覚という一つの感覚によるものにすぎません。

では、よく見てください。

今、私は目を閉じます。

そして今、私は女性の手に触れました。

【録音終了】

52 私はそれが女性だと分かります。女性の帽子をかぶっている。女性の髪をしている。触れているのは女性の手です。

なぜ分かるのですか？

触覚がそれを告げているからです。

私を言い負かせますか？

できません。私は確かに、それが女性であると知っています。背を向けていても、分かるのです。なぜなら、触れるという感覚が「そこに女性がいる」と宣言しているからです。

分かりますか？

先ほどは視覚が、そこに女性がいると教えてくれました。今は触覚が教えています。

目を閉じています。見てはいません。しかし、彼女がそこに立っていると知っています。

なぜですか？

見ているからではありません。触れているからです。

見えなくても、感じている。

触覚という感覚が、「そこに女性がいる」と告げているのです。

お分かりになりますか？

53 さて、信仰とは、望んでいる事からの保証であり、目に見えないものの確信

です。

それは、直接的で確かなものです。私の視覚が確かであるのと同じように、触覚が確かであるのと同じように、信仰も確かなのです。

信仰は、見えないものに対する証拠です。しかも、それは五感と同じくらい、はっきりと確かなものなのです。

分かりますか？

多くの人は、自分を奮い立たせて、「ああ、私は信仰を持っている」と言います。

しかし、友よ、それが本当にあるなら、必ず反応があるはずですよ。

本当にあるなら、それは働きます。

お分かりでしょうか。

54 ありがとうございます、モース姉妹。神の祝福がありますように。

さて、よく見てください。

私はその女性を見ました。視覚が「そこに女性がいる」と告げました。だから私は、彼女がそこにいると知りました。

次に目を閉じました。視覚はありません。しかし彼女に触れました。すると触覚が「そこに女性がいる」と告げました。

触覚は、視覚と同じように確かな証拠でした。どちらも直接的な証拠だからです。

さて――

信仰とは、見えず、触れず、味わえず、嗅げず、聞こえないものに対する、直接的な証拠なのです。

よく見てください。

今、私は目を閉じます。よく注意してください。

55 それはオレンジジュースでした。